

国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会報告書公開後 国内外の動向

7月15日

2015年3月24日：第1回第8期学術情報委員会開催（文部科学省）

2015年3月25日：ネイチャー、中国科学院上海珪酸塩研究所とパートナー・ジャーナルを発行

Nature Publishing Group (NPG) は、中国科学院上海珪酸塩研究所と中国初のネイチャー・パートナー・ジャーナル”npj Computational Materials” を発行することで合意した。

ネイチャー・パートナー・ジャーナルはオープンサイエンス推進のため、研究機関、学術団体等と連携し特定のテーマに照準を合わせた共同オープンアクセス出版。

2015年4月2日：CERN とエルゼビア、OA に向け契約を締結

欧州原子核研究機関 (CERN) とエルゼビアは、高エネルギー物理学分野論文のオープンアクセス推進プロジェクト SCOAP3 で適用されないエルゼビア社の物理学ジャーナルへの投稿論文をオープンアクセス (OA) とする契約を締結した。

この契約により、著作者のうち1名以上がCERNに所属する論文は、CERNと著作者が著作権を保持し、CC-BYライセンスにより再利用可能なOAとして公開される。2015年時点での物理学の研究成果の100%“ゴールド”OAという目標に向け、さらなる進展を図る。

2015年4月6日：米国立標準技術研究所 (NIST) パブリック・アクセス計画を公開

米国立標準技術研究所 (National Institute of Standards and Technology) は、OSTP OA 指令への対応としてパブリック・アクセス計画を公開。概要は以下の通り。

論文について、リポジトリとして NIH の PubMed Central (PMC) を使用し、NIST 助成論文の最終査読原稿の12か月以内の公開を義務付ける。2015年は試験運用とし、同機関内の研究については2年、機関外の助成研究については3年以内に当該計画に従った論文の公開を義務化する。

研究データは以下の3つで構成。

- ・ データ管理計画 (DMP) の提出
- ・ NIST 助成研究により生じるデータセットカタログ Enterprise Data Inventory (EDI) の作成
- ・ パブリック・アクセス基盤 Common Access Platform の構築：すべての公開可能データに永久識別子とメタデータを付与し、同機関、および他機関とのデータの相互運用を提供する。

2015年4月9日：ヨーロッパ大学協会 大学のためのオープンアクセスチェックリスト公開

ヨーロッパ大学協会 (EUA) は、研究論文へのオープンアクセス (OA) に関する機関方針の作成を支援するため、簡潔な文書 Open Access checklist for universities: A practical guide on implementation (pdf : 24 ページ)。

本チェックリストは、高等教育機関および研究機関が論文の OA 方針を作成あるいは作成を計画する際の、戦略的、実践的、経済的観点だけでなく、OA を実現することの便益、課題、方法といった主な情報を記載している。また、OA に関するリソースへのリンク、2014年にEUAが実施したOAについての

調査結論を収録。指導者、管理者、図書館員、研究者など関係者に有用な解説書。

2015年4月10日：米国助成機関のパブリック・アクセス計画まとめ

Science誌“U.S. agencies fall in line on public access”では、OSTP OA指令への対応として各助成機関が作成したパブリック・アクセス計画により、助成機関ごとのオープンアクセス可能となる論文数、PubMed Centralの助成論文公開数の時系列データ等を取りまとめた資料を掲載。

2015年4月13日：第1回オープンサイエンスの取組に関する検討会開催（日本学会会議）

2015年4月15日：Science Europe、OA出版社サービスの新たな共通原則を発表

欧州の50の主要な公的研究機関により構成されるScience Europeは、4月15日、オープンアクセス出版社サービスの4つの新共通原則を発表した。この原則は2013年4月に公開された「研究論文のOA移行の原則」を補足するもの。

新原則は、学術出版社により提供されるOA出版サービスの最低限の基準を設けることを目的としている。Science Europe会員組織は、OAに伴う支払い/補助金提供の際に適用できる出版社の最小限のサービスとして、下記の4点を採択した。

索引付け

雑誌はDOAJ、Web of Science、Scopus、PubMedのような標準的データベースに掲載しなければならない。

著作権と再利用権

著者は制約なしに論文の著作権をもつ。全ての論文はオープンライセンスのもとで出版されるべきである。CC BY 4.0が望ましい。

持続可能なアーカイビング

出版社は、公開後直ちに登録された第三者のリポジトリで、論文が自動で利用可能としなければならない。

機械可読性

論文の全文、メタデータ、サポートデータ（いつ出版されても）、引用、OA論文であるというステータスは、オープン基準により機械可読形式で利用可能でなければならない。

2015年4月22日：米国科学アカデミー、デジタルデータのキュレーションに関する報告書を公開

米国科学アカデミーは、政府、事業者、保健関連分野などで利用可能な大量のデジタルデータの収集に関する報告書“Preparing the Workforce for Digital Curation”を公開。

本報告書では、以下の点を中心に言及し、提言。

- ・ デジタルキュレーションにおいて早急に必要とされる政策、技術、専門性
- ・ デジタルキュレーションの標準化、適正な実施を促すための研究コミュニティ、政府機関、民間企業、教育機関の協力体制
- ・ 教育プログラム、資料の開発、雇用需給を監視するデジタルキュレーションに携わる人員の強化

本報告書の作成にはRDA/USメンバー3名が参加。

2015年4月30日：エルゼビア：セルフアーカイビング等に関する新たなポリシーを発表

エルゼビア社は4月30日、同社の雑誌掲載論文のセルフアーカイビング等に関する新たなポリシーを発表。

主要な変更点は、下記の通り。

- ・ 従来のポリシーは Posting という 1 つのポリシーにまとめられていた。新ポリシーは、著者に向けた Sharing と、ホスティングサービスに向けた Hosting の 2 つに分けられている。
- ・ 従来のポリシーでは、機関によるオープンアクセス義務化方針に基づいて論文をセルフアーカイブする場合と著者が自主的に行う場合で、公開できるタイミングが異なっていた。新ポリシーではこの区別をなくし雑誌別のエンバーゴ期間を設定している。
- ・ 新ポリシーではエンバーゴ期間中は著者最終版であっても機関リポジトリで公開できないとされている（学内のみの共有は可能）。

2015年5月3日：Europeana：メタデータの品質に関する報告書を公開

Europeana は、メタデータの品質に関する報告書“Report and Recommendations from the Task Force on Metadata Quality”を公開。本報告書は2013年12月から2015年5月までのメタデータの品質に関するタスクフォースの活動成果である。

本報告書では、データ提供機関の動機、技術要件、メタデータの内容の品質全体への影響を考察し、質の高いメタデータの定義、16の提言を行っている。

2015年5月7日：第2回第8期学術情報委員会開催（文部科学省）

2015年5月8日：研究助成終了後の論文を対象としたOAプロジェクトを実施

欧州委員会（EC）が助成する OpenAIRE2020 プロジェクトは、第7次研究開発計画（FP7）により助成された研究プロジェクトの助成終了後のOA論文費用を支援するOAパイロットプロジェクトを開始。

欧州委員会（EC）は、論文の受理、査読の遅れにより研究助成期間中にゴールドOAで出版することが難しいFP7助成の研究プロジェクト終了後2年間に出版する論文を対象に、総額400万ユーロ（5億4,000万円相当）を投じる。

2015年5月13日：Open Knowledge Foundation「オープンデータハンドブック」更新版公開

Open Knowledge Foundation は、オープンデータの法的、社会的、技術的解説書 Open Data Handbook の更新。本ハンドブックは2012年に初めて公開され、18か国語に翻訳されている。

更新版では公務員、ジャーナリスト、活動家、開発者、研究者、オープンデータ出版社など幅広い聴衆を対象として、オープンデータが広く利用され、可能な限り多くの場面で適用されることを目指す。

2015年5月20日：RDA8作業部会の成果をまとめた小冊子を公開

Research Data Alliance (RDA)は、以下の8つの作業部会の成果をまとめた小冊子を公開。

- ・ Data Foundation and Terminology
- ・ Data Type Registries

- ・ PID Information Types
- ・ Practical Policy
- ・ Scalable Dynamic Data Citation
- ・ Data Description Registry Interoperability
- ・ Metadata Standards Directory
- ・ Wheat Data Interoperability

2015年5月20日 : SPARC 等 : エルゼビアの新 OA 方針に反対する声明を発表

SPARC、COAR 等は、5月20日、エルゼビア社が4月30日に発表したセルフアーカイビング等に関する新 OA 方針（小欄記事）に反対する声明を発表。

同社は新 OA 方針の導入にあたり、さらなる共有を推進するためとしているが、実際には共有を抑制している。ジャーナルにより48か月という容認しがたい長期間のエンバーゴを課している。また著者最終稿のリポジトリ登録時に CC-BY-NC-ND（表示・非営利・改変禁止）の適用を要求し、論文の再利用の価値を著しく阻害している。

さらに新方針を過去に公開された論文を含め、全ての論文に適用としていることから、現在利用可能な論文であってもエンバーゴによりアクセスができなくなることもありうる。

2015年5月21日 : 第2回オープンサイエンスの取組に関する検討会開催（日本学会会議）

2015年5月21日 : エルゼビア、COAR/SPARC の反対声明への反論を COAR サイトに投稿

SPARC、COAR 等が5月20日エルゼビア社の新 OA 方針に反対する声明を発表したが、エルゼビア社は同日、この声明に反論するコメントを COAR サイトに投稿。

「新 OA 方針は、著作者や研究機関からの意見を基に改正したものであり、証拠に基づいた、STM 論文共有の原則に沿ったものである。研究機関等からはこの新方針に対し中立・賛成の意見を頂いている。

機関リポジトリが研究成果を追跡し、利用者に対してコンテンツを提供するため、メタデータの共有、利用者アクセス情報の共有、最終稿の組み込みといったサービスを、我々は図書館と協力し開発してきており、単に方針を改正するだけでなく、研究の共有が広く行われるように技術の開発に取り組んでいる。

COAR 等が指摘する CC-BY-NC-ND の適用も、原稿の利用方法が明確に示されることを歓迎するとの意見に基づいている。

新方針は、エンバーゴ期間など、購読料モデルと並行して運用される場合のグリーン OA に関するものであるが、購読料モデルの問題に関しては時間が必要である。」

2015年5月21日 : Scientific Data : PubMed に収録

ネイチャー社のデータジャーナル Scientific Data は、PubMed とのインターリンクサービスを開始し、Scientific Data のコンテンツが PubMed からアクセス可能となった。

NPG は2008年以来、著作者を代行し PMC へのコンテンツの掲載を行ってきたが、MEDLINE のいくつかのデータベースへの収録がすでに承認され、今後収録コンテンツ数を増やしていく。

2015年5月22日 : NISTEP 「科学技術動向」5・6月号を公表

科学技術学術政策研究所 (NISTEP) は 5 月 22 日、科学技術動向 5・6 月号を公開。レポート 3「オープンサイエンスをめぐる新しい潮流(その5)オープンな情報流通が促進するシチズンサイエンス(市民科学)の可能性」では、シチズンサイエンスの新たな動向について紹介している。

2015 年 5 月 27 日 : **パデュー大学の機関データリポジトリサービス**

5 月 27 日付け Elsevier Library Connect では、パデュー大学図書館学准教授 Michael Witt 氏による Library Connect ウェビナーでの発表を元に、米パデュー大学の機関データリポジトリサービスの概要を紹介。

同大学の図書館の組織概要、パデュー大学研究リポジトリ (PURR) の 4 つのサービス、これらサービスを支える人員体制を説明している。PURR は研究者のための研究データリポジトリであるというだけでなく、研究ライフサイクルを通じた研究者のデータ管理を支援するサービスである。

- ・ データ管理計画 (DMP) の作成と実施 : DMP のひな形、実例、自己評価、他の DMP ツールへのリンクの提供、ワークショップの開催、コンサルテーション等の研究者支援を行う
- ・ 共同研究 : 共同研究者とのプロジェクトの共有を図るため、仮想の研究環境 (Virtual research environment, VRE) を設定し、10GB の無料の保存スペースを 3 年間利用できる
- ・ 出版 : データセットへの DOI の付与により、データの引用・追跡ができ、データ作成者に利用統計を毎月メールで配信する
- ・ アーカイブ : Bafilit ファイルパッケージング形式、METS、MODS、ダブリンコアメタデータ要素セット、PREMIS が利用できる

2015 年 5 月 28 日 : **JST「わが国におけるデータシェアリングのあり方に関する提言」を公開**

科学技術振興機構の科学技術情報委員会は、「わが国におけるデータシェアリングのあり方に関する提言」を公開。

JST では、わが国の科学技術情報基盤のあり方について、科学技術イノベーションへの貢献の観点から議論する場として、平成 26 年度に「科学技術情報委員会」を設置。同委員会では、平成 26 年度のテーマとして「わが国における研究データの情報基盤」を設定し、日本の研究データシェアリングのあり方について議論した。

2015 年 6 月 4 日 : **エルゼビアの新 OA 方針への COAR / SPARC 反対声明に 1,600 を超える署名**

COAR、SPARC 等が発表したエルゼビア社の新 OA 方針に反対する声明 2 週間で 52 か国から 1,600 を超える個人と組織が署名した。なお、エルゼビア社はこの声明に反論するコメントを COAR のサイトに投稿している。声明は 2015 年 5 月 20 日に公開されたもので、研究成果へのオープンアクセスを支援する声が世界各国から集まっている。

2015 年 6 月 4 日 : **Wiley と F1000Research、早くて簡単なオンライン出版を提供するパイロットプログラムを開始**

Wiley 社は、F1000Research と連携し、早くて簡単なオンライン出版を提供する 6 か月間のパイロットプログラムを開始。このプログラムでは、出版基準を満たさない場合に、最終稿を F 1000Research に提出するオプションを著者に提供する。対象となる雑誌は Journal of Separation Science、

Electrophoresis など 5 誌。

パイロットプログラムでは、より範囲の広いオープンアクセス (OA) の生物医学ジャーナルに、素早く原稿を送信できるこのサービスが普及するかを評価し、また査読前出版という考え方が著者に受け入れられるかを調査する。

2015 年 6 月 5 日 : **米厚生省の取り組み : 保健データの開放**

5 月 31 日-6 月 3 日米国ワシントン DC で開催された Health Dataploozza において、米厚生省 (Department of Health and Human Services、HHS) は、「研究者、政策立案者、イノベーター、そして多様な機関や人々への保健データの開放」というミッションに基づく取り組みを発表。

米国国立衛生研究所 (National Institutes of Health, NIH) からは、コミュニティとのオープンデータネットワークを拡大し、27 センター間でのデータ接続・移行の改善を図るため、仮想共有スペース “Commons” を構築し、一定のオープンデータルール下で、パブリック、プライベートクラウドなど異なるプラットフォーム上で、Commons にある全てのリソースの活用を促すための開発を行っていることが報告。

2015 年 6 月 8 日 : **Wiley 社 : ジャーナルのセルフ・アーカイビングポリシーのまとめページを新設**

Wiley 社は、各ジャーナルの「セルフ・アーカイビング」ポリシーを簡単にチェックできるページを Wiley Online Library に新設。セルフ・アーカイビングとは「自分が書いた論文を出版社のサイト以外でネット公開することで、研究室ホームページや大学のサーバー (機関リポジトリ) また ResearchGate のようなネットサービスなどでの公開」を意味する。

上記のページではプルダウンメニューからジャーナルの誌名を選ぶだけで、各ジャーナルのポリシーの概要をチェックすることができる。

2015 年 6 月 9 日 : **日本の博士論文検索サービス CiNii Dissertations の試験運用を開始**

国立情報学研究所 (NII) は 6 月 9 日、日本の博士論文検索サービス CiNii Dissertations の試験運用を開始。

2015 年 6 月 10 日 : **「博士論文のインターネット公開に関する現況と課題 (報告)」を公表**

機関リポジトリ推進委員会は、機関リポジトリ推進委員会コンテンツワーキンググループによる「博士論文のインターネット公表化に関する現況と課題 (報告)」を公開。

本報告書の第 1 部では、IRDB (Institutional Repositories DataBase : 学術機関リポジトリデータベース) に登録されたデータを調査することで、学位規則改正後に学位授与された博士論文の機関リポジトリへの登録状況を明らかにしている。第 2 部では、機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ参加機関を対象としたアンケート調査により、博士論文登録作業の現状と共通する課題を明らかにしている。

2015 年 6 月 10 日 : **米国退役軍人省、パブリックアクセス計画に PMC を採用**

SPARC 6 月 10 日付け記事” Department of Veterans Affairs (VA) Public Access Plan to Use PMC Platform for Articles” では、3 月に公表された米国退役軍人省 (U.S. Department of Veterans Affairs) の助成研究論文と研究データのパブリックアクセス計画の概要を解説。

論文リポジトリとして、米国国立衛生研究所（National Institutes of Health, NIH）の PubMed Central への査読済最終稿の 12 か月以内の提出を要求する。他の機関とは異なり、エンバゴ期間の短縮あるいは延長の申し立てに関する規定は設けていない。 VA Office of Research and Development の助成研究については 2015 年 10 月 1 日から、Veterans Health Administration（VHA）の助成研究については 2015 年 12 月 31 日から施行する。

研究データについては、データ管理計画（DMP）の提出を義務付けている。研究データ共有の方法と共有すべきデータの種類の両方について、段階的導入方法を取り入れている。データ使用の同意等による制限されたパブリックアクセスの仕組みを用い、個人を特定できる情報の保護を確保できる可能な限り完全なオープンパブリックアクセスの仕組みへと移行する。

保健情報の匿名化と、パブリックアクセスおよびすぐに入手可能な個人のデータベースとを適合させるため、政府および政府以外の専門家と協力し、プライバシーリスクのアセスメントを開発し、2016 年 9 月 31 日の完成を目指す。

2015 年 6 月 15 日：第 3 回オープンサイエンスの取組に関する検討会開催（日本学術会議）

2015 年 6 月 16 日：米国：COAPI、大学の相次ぐ OA 方針採用を歓迎

オープンアクセス（OA）方針を持つ北米の大学により結成された Coalition of Open Access Policy Institutions（COAPI）は、研究大学での OA 方針の採用が増加していることを歓迎する旨を伝える声明を発表した。新たに OA 方針を採用した大学は以下の通り

- ・ ペンシルベニア州立大学（Pennsylvania State University）
- ・ ノースカロライナ大学チャペルヒル校（University of North Carolina Chapel Hill）
- ・ インディアナ大学/パーデュー大学フォートウェイン校（Indiana University-Purdue University Fort Wayne）
- ・ コロラド大学ボルダー校（University of Colorado Boulder）
- ・ アーカンソー大学（University of Arkansas）
- ・ ダートマス大学芸術科学部（Dartmouth Faculty of Arts and Sciences）

2015 年 6 月 21 日：第 3 回 第 8 期学術情報委員会開催（文部科学省）

2015 年 6 月 22 日：欧州：知識とデータ駆動経済のためのオープンサイエンス

オープンサイエンス、欧州の研究領域およびイノベーションに関する欧州の政策を議論する会議“Opening up to and ERA of Innovation”に寄せて、欧州委員会デジタル経済・社会担当と研究、科学およびイノベーション担当の両コミッショナーは、オープンサイエンスについての記事を寄稿した

オープンサイエンスは、研究が実行され、研究者が協力し、知識が共有され、科学が体系化される方法の現在進行している変遷を説明し、科学と研究の手法における体系的变化を表す。

欧州の研究とイノベーション助成プログラム Horizon2020 では、論文へのオープンアクセス（OA）が義務化され、Pilot on Open Research Data を開始した。Digital Single Market 戦略では、現在と将来のデータ基盤をつなぐ欧州オープンサイエンス・クラウド・イニシアチブをまもなく開始する。このイニシアチブは、保存のための安全でシームレスなアクセスを欧州の研究者に提供し、異なるリソースのデ

ータ管理と処理を可能にする。

競争力委員会 は5月下旬、より速く幅広いイノベーションを駆動する、オープンデータ・インテンシブなネットワーク化された研究についての委員会としての結論を採択し、オープンサイエンスのための実行可能なアクションプランと戦略の作成への期待を明言した。

欧州がより競争力を持ち、科学における卓越性を保持する共通の努力に貢献する正しい方法で、オープンサイエンスは確実に進展しなければならない。第一にオープンサイエンスを国家、欧州、地球規模で進め、第二に科学とビジネスの両方に分かりやすいオープンサイエンスの環境を作り出さねばならない。第三にオープンサイエンスは包括的プロセスであり、科学が社会経済学および一般市民の要求に対応するものでなければならない。

2015年6月30日 : Wiley 社 : Figshare との提携を表明

Wiley 社は、データリポジトリ figshare との提携を表明。データをオープンに共有したい著者をサポートするため、Wiley 社はこの提携により、現在のジャーナルワークフローと論文出版におけるデータ共有の一体化をすすめる。

新たなデータ共有サービスをいくつかの雑誌で試験運用し、新たなデータ引用とデータ共有方針に沿って今後数か月展開する。このサービスにより、著者や読者の費用負担なしに、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で、Wiley Online Library の論文のより多くのデータを入手、共有、再現できる。

2015年7月9日 : ResearchGate、DataCite と国立図書館、世界のオープンアクセス政策の動向

国立国会図書館(NDL)が年4回刊行する情報誌『カレントアウェアネス』のNo.324に「ResearchGate - リポジトリ機能を備えた研究者向け SNS - 」、「DataCite : 国立図書館×DOI×研究データ」、「世界のオープンアクセス、オープンサイエンス政策の動向と図書館の役割」という記事が掲載。

ResearchGate - リポジトリ機能を備えた研究者向け SNS - / 坂東慶太

本稿では研究者向け SNS の代表格である ResearchGate を取り上げ、その機能概要の解説などを通じて、研究機関と研究者向け SNS の今後について展望する。ResearchGate の特徴的な機能として、研究に関する質問を投げかけるとその分野の専門家から回答を得ることが出来る。「Q&A」、ResearchGate をリポジトリの様に扱える。「Publications」、ResearchGate 内における研究者の評価指標である「RG score」が挙げられている。

DataCite : 国立図書館×DOI×研究データ / 福山樹里

国際データ引用イニシアティブ(DataCite)と、2つの国立図書館(ドイツ国立科学技術図書館(TIB)と英国図書館(BL))における研究データに関する取り組みを紹介する。TIBの取り組みとして、研究データの管理に必要なインフラの提供を目的とした“RADAR”というリポジトリの運営を紹介している。

世界のオープンアクセス、オープンサイエンス政策の動向と図書館の役割 / 林和弘

世界のオープンアクセス政策の概括を行い、動向を示す。本稿では昨今の事情に鑑みて、国の単位での政策動向について概括し、図書館活動に向けた考察を加える。本稿では ROARMAP の集計による各国の政策数の量的動向や、OECD による国別調査の結果が整理されている。